

**セ試平均点**(900点満点；加重平均)は、

**文系型 17.4 点ダウンの 531.8 点、**

**理系型 17.9 点ダウンの 529.9 点！**

基幹科目の国語、英語のダウンで、文・理系型ともに大幅ダウン。英語は筆記、リスニングともダウン。地歴は世界史アップ、日本史ダウン、理科は化学アップ、生物ダウン。

旺文社 教育情報センター 21年1月21日

21年センター試験(本試)が1月17日(土)・18日(日)の両日、全国738試験場で実施された。大学入試センターが1月21日に発表した各科目の平均点等の中間集計を基に、文系・理系の標準型「5(6)教科7科目(900点満点)」の平均点を算出した。

文系型531.8点、理系型529.9点で、ともに前年より大幅なダウン。科目別では、国語、英語(筆記、リスニングテストとも)、数学I・Aなどの基幹科目のほか、日本史B、地理B、生物I、物理Iなどもダウン。アップしたのは、公民の各科目と世界史B、化学Iなど。

急激な景気悪化の大波を受け、学費の安い国公立大志向の高まり、私立大併願校数の絞込みなどが見られる中、文系・理系型とも平均点ダウンで国公立大へは“弱気出願”に走り、国公立大との併願の多い難関私立大への出願は、前年並みとなりそうだ。

各科目の平均点等の最終確定は、2月5日に発表される予定である。

### ■ 志願・受験状況

<志願状況：志願者数約54万4,000人で、ほぼ前年並み>

①志願者数、前年より596人増：21年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比0.1%増の54万3,981人で、2年ぶりの微増。

②“現役”は2年ぶりに増加、“浪人”は6年連続の減少：現役は18・19年と2年連続増加したが、20年は減少。21年は再び増加に転じた。現役志願者数は、過去最高の現役志願率40.4%に支えられ、前年より3,250人(0.8%)増の43万1,263人だった。

一方、浪人は16年以降、6年連続の減少で、10万6,133人(前年比2.3%減)。

③志願者が微増に転じた主な背景：

- 20年度の高卒者数の減少率(前年比5.1%減)に比べ、今春の高卒者数は例年並みの2%程度の減少に留まると予測される。
- 現役の大学志願率(20年53.5%)のアップが見込まれている中で、私立大のセ試参加増(21大学64学部増の487大学1,380学部)に加え、セ試利用入試の複線化等による志願者獲得策の拡大。

- 推薦・AO入試などで年内に大学進学を決めてしまう“早期受験組”に対し、学習意欲や学力の維持・向上策の一環として、セ試を活用する高校が拡大している。
- 普通科での高い進学率(20年卒業者の大学等進学率 61.9%)に加え、専門学科や総合学科でも大学等への進学率が高まっている。

<受験状況：公民は前年の「現社」平均点ダウンから、受験者減>

第1日目(1月17日)と第2日目(18日)の受験状況は、以下のとおり。

◇[第1日目](1月17日)

教科等	21年受験者(対前年比)	21年受験率(対前年比)	20年受験者	20年受験率
公民	305,639人(-0.2%)	56.2%(-0.2ポイント)	306,378人	56.4%
地歴	359,936人(+0.7%)	66.2%(+0.4ポイント)	357,279人	65.8%
国語	484,884人(+1.0%)	89.1%(+0.8ポイント)	479,857人	88.3%
外国語 筆記	501,115人(+0.6%)	92.1%(+0.5ポイント)	497,980人	91.6%
外国語 リスニング	494,350人(+0.8%)	90.9%(+0.6ポイント)	490,414人	90.3%

◇[第2日目](1月18日)

教科等	21年受験者(対前年比)	21年受験率(対前年比)	20年受験者	20年受験率
理科①	194,029人(-0.6%)	35.7%(-0.2ポイント)	195,158人	35.9%
数学①	362,628人(+0.2%)	66.7%(+0.1ポイント)	361,961人	66.6%
数学②	328,357人(+0.3%)	60.4%(+0.1ポイント)	327,518人	60.3%
理科②	230,869人(-1.3%)	42.4%(-0.6ポイント)	233,865人	43.0%
理科③	169,864人(+0.4%)	31.2%(+0.1ポイント)	169,257人	31.1%

- 注1. 外国語の「筆記」は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語。「リスニング」は英語のみ。  
 2. 受験者数・受験率は20・21年とも、速報値(試験実施当日発表)。  
 3. 受験率(%)=受験者数÷志願者数(543,981人)×100

- 各教科(受験枠)の受験状況をみると、セ試志願者微増を反映し、理科①(受験者数の対前年比-0.6%)・理科②(同、-1.3%)及び公民(同、-0.2%)を除き、各受験枠で受験者増となっている。理科①は生物I(前年平均点 57.6点、対前年差-9.4点)、理科②は理科総合A(同 48.0点、同-9.1点)の前年平均点の低さや大幅ダウンなどで、主に文系志望者の敬遠が影響しているとみられる。公民は、現代社会(例年、公民受験者の半数以上を占める)の前年平均点(60.6点)が倫理(67.6点)や政治・経済(63.7点)に比べて低かったことなどから、理系志望者に敬遠されたのではないかとみられる。理系志望者は、前年の平均点が高かった地理B(66.4点)に流れたとみられる。
- 英語リスニングテスト(以下、リスニング)は、学部ベース(すべての選抜方法含む)で、国立大 100%、公立大 98%、私立大 70%近くで合否判定に利用され(筆記とリスニングの得点次第ではリスニング不採用の場合も含む)、利用度は高まっている。こうした状況を反映し、リスニングの受験率は前年より0.6ポイントアップの90.9%に達している。  
 リスニングでは、ICプレーヤーの不具合などから253人の再開テスト対象者が出たが、そのうち249人がリスニング終了後(第1日目)に再開テストを受けた。

## ■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1月21日)

主な科目の前年との平均点差をみてみよう。

- 前年より平均点がダウンした主な科目は、国語(前年中間集計値との差。以下、同。-6.4点)、英語(-11.4点。筆記-9.1点、リスニング-5.0点)、数学Ⅰ・A(-2.4点)、日本史B(-5.7点)、地理B(-1.5点)、生物Ⅰ(-1.5点)、物理Ⅰ(-0.8点)など。

○国語は例年通りの出題形式や分野(近代以降の文章2題<評論・小説>、古文1題、漢文1題)であったが、評論の文章量が大幅に増え、選択肢も紛らわしくて難化。また、古文の長文出題などの難化もあり、平均点ダウンにつながったようだ。

○英語の筆記及びリスニングの前年との平均点差は上記のとおりだが、「筆記+リスニング」(加重平均による得点率<56.4%>を基に200点満点に換算)は-11.4点。

筆記は出題形式に大きな変化はなかったが、総語数が増えたことなどが大幅な平均点ダウンにつながったとみられる。

リスニングは形式・内容、読み上げ速度などはほぼ前年を踏襲しているが、聞き取り内容の把握問題などが増え、前年より難化したようだ。

○数学は数学Ⅰ・Aがダウン(-2.4点)、数学Ⅱ・Bが前年並み(+0.2点)である。

数学Ⅰ・Aは出題の難易度や量は前年並みだが、題意の取り違いなど、ケアレス・ミスで得点を落とす箇所もみられ、平均点ダウンにつながったようだ。第4問の「場合の数、確率」では、出題の題意を正確に理解しないと失敗する。

数学Ⅱ・Bは解答問題数、出題分野の順などに変更ないが、計算量は増加。必答の第1問一三角関数の角の大きさを評価する問題は目新しく、受験生は戸惑ったとみられる。第2問の融合問題も盛りだくさんで計算量も多く、手間取ったとみられる。選択の第4問は、四角錐を題材にした空間ベクトルの出題で、問題設定が複雑でやや難しい。

○地歴では、日本史Bと地理Bがダウン。文系志望者の受験が多い日本史Bは、政治史重視の傾向だが、年代順配列問題が従来の4択から6択に増えたり、正誤文判定問題が増えたり、図版・史料を多用した読み取り問題などで、解答に手間取ったことなどが平均点を引き下げたとみられる。

理系志望者の受験が比較的多い地理Bの出題分野は前年とほぼ同じだが、第2問の地域調査の問題で資料の読み取りに手間取り、苦戦したとみられる。

○理科は、生物Ⅰ、物理Ⅰ、地学Ⅰなどがダウン。生物Ⅰの出題分野は例年どおりで、幅広く出題されたが、グラフの読み取りなどの考察問題が増え、やや難化。

物理Ⅰの問題量は前年並みだが、第4問にセ試には目新しい「気体の状態変化」を出題したり、設問の観点に新味を出したりしたため、戸惑った受験生もいたとみられる。

- 一方、平均点アップの主な科目は、現代社会(+0.2点)、倫理(+3.9点)、政治・経済(+5.8点)といった公民の各科目と、世界史B(+3.9点)、化学Ⅰ(+5.4点)など。

○例年、公民では受験者数の一番多い現代社会は、各分野から満遍なく出題されており、確実な知識と思考力があればクリアできる標準レベル。

- 世界史Bは、2文の正誤判定問題の増加、社会経済史や文化史の融合問題などでやや手間取ったとみられるが、問題量は前年並み。
- 化学Iは、幅広く出題されており、基本的な知識で解きやすい正誤問題の増加などが平均点アップにつながったとみられる。
- 大学入試センターから発表された科目別平均点と受験者数(中間集計)をもとに旺文社が算出した5(6)教科7科目(900点満点)の加重平均点は、次のとおり。
  - **文系標準型**(地歴と公民各1科目、理科1科目) ; 531.8点(-17.4点)
  - **理系標準型**(地歴と公民合わせて1科目、理科2科目) ; 529.9点(-17.9点)
  - ここでの文系型、理系型の平均点は、私立大型を含む全受験者の加重平均を集計したものである。実際の文系志望者(6教科7科目)は、平均点が大きくダウンした日本史B、生物Iなどの選択が理系志望者より多いと想定される。一方、理系志望者(5教科7科目)は、受験者の多い現代社会や化学Iの平均点アップによって文系志望者より平均点は高いとみられる。
 

セ試受験者の「自己採点集計」(5(6)教科7科目受験者)では、上記のようなことから、ここでの加重平均点より高く算出されており、また、理系志望者の平均点が文系志望者の平均点を上回っている。
  - **文・理系型共通の5教科6科目平均点**(地歴と公民合わせて1科目、理科1科目の800点満点を900点満点に換算) ; 526.1点(前年確定値との差、-20.3点)
- 得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、**地歴：地理B－日本史B＝6.2点／公民：倫理－現代社会＝11.1点／理科：化学I－地学I＝15.1点。**

得点調整は、対象科目間の平均点較差が20点以上で、それが問題の難易差に基づく場合に実施される。現時点では、いずれも20点以内に収まっており、得点調整は実施されない模様。実施の有無については1月23日(金)、大学入試センターから発表される予定。

## ■**文系・理系志望者とも、平均点の大幅ダウンで“弱気出願”に!?**

- 21年入試は、未曾有の金融危機による景気悪化のただ中で行われる異例の状況だ。
 

受験生の間では、経済的理由から学費の高い私立大進学を諦めたり、併願校を絞り込んだり、地元の国公立大に限定したり、浪人を極力避けるなど、親の経済事情を意識した動向もうかがえる。
- こうした経済状況の悪化に加え、セ試の基幹科目であり、標準配点の高い国語、英語の平均点が大幅にダウンしたことなどから、文系・理系志望者とも国公立大の難関・上位校を中心に、“弱気出願”が見込まれる。
 

国立難関大(学部)志望の上位層にはさほど大きな変化はないとみられるが、難関チャレンジ層が周辺の国公立大へ流れ、激戦も予測される。
- 私立大入試については、国公立大との併願の多い難関大のセ試利用入試などでは志願者数を維持するとみられる。したがって、首都圏・近畿圏の難関私立大と、他の私立大との「二極化」が一層強まるとみられる。

## ●平成21年度大学入試センター試験(中間集計)平均点等一覧

＜平成21年1月21日 大学入試センター発表＞

教科名	科目名	平成21年(中間)		平成20年(中間)		平均点の 対前年差	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
文系標準型平均点(900点満点)		—	<b>531.8</b>	—	549.2	▲17.4	
理系標準型平均点(900点満点)		—	<b>529.9</b>	—	547.8	▲17.9	
国語(200点)	国語	207,448	112.4	213,282	118.8	▲6.4	
地理歴史 (100点)	世界史A	949	45.0	1,002	48.7	▲3.7	
	世界史B	41,257	63.9	40,729	60.0	3.9	
	日本史A	1,855	45.7	2,050	55.4	▲9.7	
	日本史B	63,519	58.7	63,710	64.4	▲5.7	
	地理A	2,445	55.2	2,751	56.4	▲1.2	
	地理B	33,539	64.9	35,891	66.4	▲1.5	
公民 (100点)	現代社会	52,371	61.2	60,295	61.0	0.2	
	倫理	22,624	72.3	22,363	68.4	3.9	
	政治・経済	35,126	70.0	35,562	64.2	5.8	
数 学	数学① (100点)	数学Ⅰ	3,999	50.3	5,037	49.0	1.3
		数学Ⅰ・A	142,816	64.2	143,394	66.6	▲2.4
	数学② (100点)	数学Ⅱ	3,130	29.2	3,643	30.6	▲1.4
		数学Ⅱ・B	127,452	52.3	128,399	52.1	0.2
		工業数理基礎	17	32.5	21	43.0	▲10.5
		簿記・会計	392	44.2	451	45.3	▲1.1
	情報関係基礎	219	60.3	197	66.0	▲5.7	
理 科	理科① (100点)	理科総合B	5,865	58.2	5,589	61.3	▲3.1
		生物Ⅰ	65,320	56.8	62,238	58.3	▲1.5
	理科② (100点)	理科総合A	9,383	58.4	9,945	49.4	9.0
		化学Ⅰ	81,957	70.0	78,796	64.6	5.4
	理科③ (100点)	物理Ⅰ	60,581	63.9	58,679	64.7	▲0.8
	地学Ⅰ	9,844	54.9	9,676	62.4	▲7.5	
外国語 (200点)	英語	筆記(200点)	220,807	116.8	223,539	125.9	▲9.1
		リスニング(50点)	225,783	24.3	213,650	29.3	▲5.0
		筆記+リス(200点)	—	112.8	—	124.2	▲11.4
		ドイツ語	66	151.8	73	130.6	21.2
		フランス語	122	144.4	120	138.1	6.3
		中国語	235	140.9	273	150.7	▲9.8
		韓国語	80	171.4	97	145.9	25.5

＜注＞① 文系標準型平均点(900点満点)は、国語(200点)、地歴(100点)、公民(100点)、数学①(100点)、数学②(100点)、理科(①、②、③合わせて集計100点)、外国語(200点；英語は筆記＜200点＞+リスニング＜50点＞の得点率を基に200点換算)の加重平均点。

② 理系標準型平均点(900点満点)は、上記文系型の地歴と公民を合わせ(1教科として集計100点)、理科を2科目(①、②、③の各加重平均点の合計×2/3=200点)、とする5教科7科目の加重平均点。

③ 文系・理系とも、大学入試センター発表の科目別平均点(小数第2位まで)と受験者数をもとに旺文社が算出(小数第1位まで)。

④ 5教科6科目(文系・理系共通の800点満点を900点満点に換算)の加重平均点は526.1点で、20年(確定)より20.3点のダウン。

⑤ 地歴(B科目間)、公民、理科(各Ⅰ科目間)における得点調整は、「化学Ⅰ」-「地学Ⅰ」の15.1点が最大だが、実施されない模様。